

米づくり情報 (NO. 3)

令和5年6月28日

伊万里・西松浦地区農業技術者連絡会作物部会

1 気象概況 (アメダス観測地：伊万里)

月	半旬	平均気温		最高気温		最低気温		降水量		日照時間	
		平年値 ℃	本年値 ℃	平年値 ℃	本年値 ℃	平年値 ℃	本年値 ℃	平年値 mm	本年値 mm	平年値 時間	本年値 時間
6月	3	21.9	23.0	26.5	27.9	18.2	19.9	48.2	0.0	22.1	23.2
	4	22.4	23.8	26.8	29.7	19.0	19.1	67.9	0.0	19.6	42.0
	5	23.1	23.0	27.1	27.3	20.0	20.2	85.9	78.0	16.0	9.4
	6	24.0	-	27.7	-	21.1	-	95.6	-	14.1	-
7月	1	24.8	-	28.4	-	22.0	-	97.6	-	15.6	-
	2	25.5	-	29.2	-	22.6	-	84.3	-	19.2	-
	3	26.1	-	30.0	-	23.1	-	59.0	-	23.5	-

【6月3半旬～5半旬の気象概況】

- ・気温は、平年並み～1.4℃高く推移し、日照時間は6月3半旬から5半旬にかけて平年比129%と多照であった。
- ・降水量は平年より少なく、平年比39%であった。

2 生育状況 (6月28日)

項目 品種(設置場所)	年次	草丈 (cm)	莖数 (本/m ²)	主稈出葉数 (L)	葉色 SPAD	概要
夢しずく 6/2移植 東山代町脇野	本年値	46.5	312	7.8	44.1	<ul style="list-style-type: none"> ・草丈は、平年より高い ・莖数は、平年並 ・主稈出葉数は平年よりやや少ない ・葉色はやや濃い
	平年値	41.0	301	8.2	41.8	
	平年比	113	104	-0.4	2.3	
ヒノヒカリ 6/19移植 松浦町桃川	本年値	17.9	63	4.2	-	<ul style="list-style-type: none"> ・草丈は、平年並 ・莖数は、平年より少ない ・主稈出葉数は平年よりやや少ない
	平年値	18.1	84	4.5	-	
	平年比	99	75	-0.3	-	
たんぼの夢 6/17移植 松浦町桃川	本年値	15.8	64	4.2	-	<ul style="list-style-type: none"> ・草丈は、平年より低い ・莖数は、平年より少ない ・主稈出葉数は、平年より少ない
	平年値	19.4	92	5.2	-	
	平年比	82	70	-1.0	-	

(耕種概要)

品種	年次	苗質		移植日 (月日)	栽植密度 (株/m ²)	備考
		苗丈	葉令			
ヒノヒカリ	本年値	12.1	2.1	6月19日	15.8	前作 大麦
	平年値	13.2	2.5	6月20日	17.5	
たんぼの夢	本年値	10.0	2.2	6月17日	15.2	前作 大麦
	平年値	13.5	2.8	6月17日	17.1	

※夢しすくの耕種概要は、稲作情報 No.1 を参照。

3 今後の管理

1) 山間早植え水稻（5月上旬移植）

- ・まもなく幼穂形成期を迎える。幼穂形成始期（幼穂長 1 ミリ）を迎えた圃場では、次の表を参照し穂肥を施用する。

《夢しすく 穂肥診断基準》

幼穂形成始期の草丈(cm)	葉 色		施 用 時 期		穂肥施用量 (kg / 10a)	
	群 落	SPAD-502	出穂前日数	幼 穂 長	窒素成分量	BB602
	3.0以下	34以下	22~20日前	1 mm	3.0	18 kg
73cm以下	3.0~3.5	38以下	20~18日前	2 mm	3.0	18 kg
	3.5~3.8	38~39	15~14日前	10~15mm	1.5~2.0	10~12kg
	3.8以上	40以上	晩限は止葉抽出終了まで		1.0以下	6 kg
73~79cm	3.0~3.5	34以下	20~18日前	2 mm	1.5~2.0	10~12kg
	3.5~3.8	38~39	15~14日前	10~15mm	1.0	6 kg
	3.8以上	40以上	施 用 し な い			
80cm以上	原 則 と し て 施 用 し な い					

【穂肥診断の方法】

- ①幼穂形成始期頃の草丈を測る。
- ②葉色（群落・SPAD 値）を測る。
- ③上記①②の測定値を診断指標に当てはめ、施用量を確認する。
- ④施用量を確認したら、基準の施用時期に穂肥を施用できるよう準備する。
- ⑤穂肥は、湛水状態で施用し最低 4 日間は止水し、落水しない

2) 普通期水稻「夢しすく」

- ・有効茎（1 株当たり 20 本程度）が確保できた圃場から順次中干しに移行する。
- ・ガス対策として移植後 15 日、25 日頃は夜干しなどを行い、根の活力を高める。
ただし、用水確保が難しい地域では落水せずに湛水状態を保つようにする。
- ・中干しは約 1 週間、土壌表面に軽い亀裂が入り、足跡がわずかにつく程度とし、中干し後は間断灌水を行う。なお、中干しを強めにした圃場（手が入るほどの亀裂がある）では、いったん通水し、ならしをしてから間断灌水に移行する。
- ・移植後に湛水状態が保てず、除草剤処理後の水管理が徹底できなかった圃場では、ヒエ、コナギやホタルイ等の雑草の発生が散見される。速やかに、中後期除草剤等による防除を実施する。



左 18 本 右 17 本

（間もなく中干へ移行）

左 29 本 右 23

（ただちに中干へ移行）

参考）茎数の目安

3) 普通期水稻「たんぼの夢」、「ヒノヒカリ」等

- ・除草剤処理後 1 週間経過した圃場は、浅水管理に移行し莖数確保に努める。

※除草剤は、散布後 3 日経過すれば有効成分が土壤に吸着されるが、除草剤の処理層が破壊されないよう湛水状態（水尻を止水して湛水状態を保ち自然落水によって田面が見えても 1 週間は入水しない。）を保つようにする。ただし、高温と乾燥によって白乾してきた場合は、かけ流しはせず、黒乾状態を保つ程度に入水を行う。

- ・7 月以降も断続的な降雨が予想されている。大雨の際は水尻を低くし長時間の冠水を避ける。
- ・スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）対策として、浅水管理とスクミノン（1~4 kg/10a）散布を併せて行い、貝の食害活動を抑制する。

4) 共通

（いもち病）

- ・6 月 29 日までの BLASTAM 情報（気象条件によって葉いもちの発生を予測するシステム）によると、伊万里では 6 月 9 日および 11 日に葉いもちの感染好適条件が観測されている（好適条件が観測された 1 週間後に初発生や病斑数の急激な増加が予想される）。発生状況に注意し、進展型病斑が確認された圃場では、オリブライト粒剤等で速やかに防除を行う。
- ・圃場内に放置されている補植苗では「いもち病」や「ごま葉枯病」の発生が懸念されるため、補植後はすみやかに除去する。



圃場の置き苗で確認されたごま葉枯病



圃場の置き苗で確認されたいもち病

（ウンカ類）

- ・現在、トビイロウンカは未確認であるが、佐賀市、嬉野市のトラップでは、6 月 10 日以降断続的にセジロウンカの飛来が確認されている。まだ梅雨が続いており、さらなる飛来の可能性があるため、引き続き発生状況に注意する。
- ・防除時期については、今後の飛来状況や圃場条件（移植時期や品種、圃場の場所等）によってウンカ類の発生量が異なるため、発生状況に応じて防除を行う。

令和5年産水稻生育期間気象グラフ（アメダス：伊万里）

西松浦農業振興センター

